

許さぬ団結破壊 生き方は曲げられない

朝日火災争議全面勝利報告集



野村證券の責任を追及し、朝日火災争議をかたせる会
全日本損害保険労働組合 全損保朝日提訴団

1978 ▶▶▶ 1982

日経ショックとたたかいはじまり

全組合員が団結し、たたかった三年間。卑劣な選挙介入

「ゼロ回答」とたたかう

七八春闘は長期化。第六波ストを翌日に控えた六月二十二日、日本経済新聞トップに「朝日火災再建に乗り出す 大蔵省 大株主」と記事が踊った。朝日支部闘争委員会、全損保はただちに見解を発表し、「経営危機」とはまったく異なること、背景には、中小損保全体を効率化しようという政府の狙いがあることなどを明らかにし、損保産業全体の問題としてたたかうことをよびかけた。

八月には野村證券から田中迪之亮氏が社長として送り込まれる。従来の対等の労使関係を全否定し、「合理化」計画を乱発。攻撃は、ゼロ回答、三月臨給のメリット拡大賃上げと人事制度改悪のセット提案、労働協約改悪提案とエスカレートした。朝日支部は、全損保の全面的な支援でたたかい。七九年には「外に出るたたかい」を強化した。

1978年6月22日
日経新聞1面トップで
「朝日火災再建に乗り出す」と報道

78年ゼロ回答打破のため
職場集会を開き意思統一



1978年7月31日
野村證券から
田中迪之亮社長
が送り込まれる



78年ゼロ回答打破
抗議集会

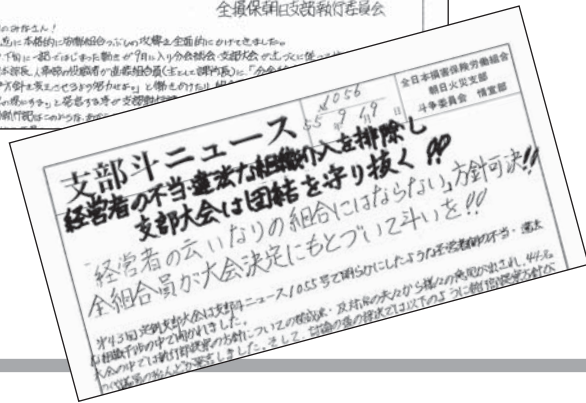
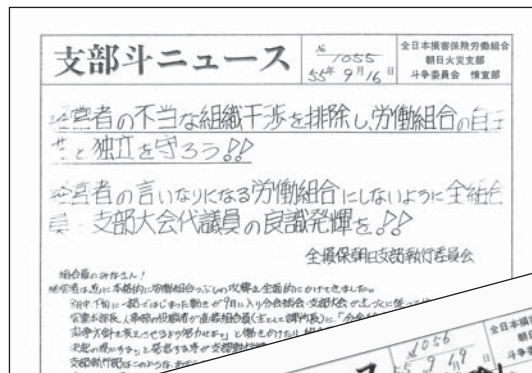


78年秋、
本社役員室前で





79年秋 たたかいを外へ(機関紙「あさひ」59号(左)、62号(上))



組合員の団結を呼びかける「支部斗ニュース」

たたかいを外に広げる

主な出来事

1978年

- 6月 日経新聞1面トップで「朝日火災再建に乗りだす」と報道
- 7月 全損保はパンフ「朝日の仲間とともに」を発行
株主総会で野村證券専務田中勉之亮氏の社長就任が決定
賃上げゼロの押し付けと「合理化」の強行
- 8月 朝日支部は支部大会 団結し反撃
- 秋 支部指名ストによる抗議団上京 ストライキの反復
全損保は全面的支援

1979年

- 毎月のように大規模な人事異動が反復される
- 5月 経営は、中労委あっせんの場合で、「20数年間たまったアカをおとす」などといい、賃上げゼロの姿勢を示す。あっせんは不調に
- 6月 支部は東京都労働委員会に不当労働行為救済命令申立て(国交拒否など)
- 7月 経営は「全面的人事制度改悪をのまない」と賃上げはしないとし、セットで提案する
- 9月 朝日支部大会「外へ出るたたかい」決定
全損保はマンガパンフ「私たちは許さない」を発行
- 秋 支部はストライキの反復
全損保は全国的に野村証券への抗議行動と街頭宣伝を開始

1980年

- 1月 全損保は、朝日闘争解決に関する全損保スト権確立を提起
- 2月 都労委「実効確保の措置」申立に「勧告」。組合の「セット提案」の切り離しの要求を事実上認める。
全損保はマンガパンフ「私たちは許さない」第2号を発行
- 3月 経営が、組合役員30数名の大量不当配転、2件の組合員の夫婦生き別れ配転、を含む人事異動を提案
*生き別れ配転は組合要求に従い解決
- 8月 経営は定例支部大会に向け全国一斉に組合役員選挙に介入。たたかう仲間執行部多数派を守る。
- 10月 支部は東京都労働委員会に新たに不当労働行為救済申立(役員選挙への支配介入)

1981年

- 4月 組合機関役員27名を含む大量の人事異動。昇類・昇格差別はじまる
- 10月 都労委は経営の支配介入を禁止する勝利命令を出す
経営は命令に従わず、支配介入よりはげしく
- 11月 定例支部大会 後に会社側証人となる太田忠志氏が委員長となり、たたかう仲間は執行部少数派に

1982年

- 9月 組合活動休暇の差別はじまる



79年秋の統一行動、朝日大阪分会の隊列

80年9月大会 支配介入をはね返し、組合側が多数派を維持



都労委へ提訴



都労委審問
左中央は上條弁護士



1981年10月14日 都労委は経営の支配介入を禁止する勝利命令を下した。しかし、経営側はこの命令に従わずより支配介入を強めていった

たたかいの記憶

一五年以上前のことになる。
七十八年六月、日経ショックといわれる出来事の時、私は中央執行委員の員、その翌年から本部専従となつて、朝日の仲間とともに闘ってきた。
朝日経営の不当労働行為はますます、全損保朝日支部を支えていた仲間次第と配転がだされた。そして激しい人減らし、そのなかでも朝日の一人ひとりの仲間は職場で踏み張りよく闘い続け、大田決定を先頭に支部体制を維持し続けていた。
八年は、不当労働行為の都労委命令を待って支部大会を二月に開くこととした。その都労委の証人も不当労働行為によつて証言に立えず、陳述録取書を上条弁護士が代理証言した。全ての分会総会に对立候補が出され、支部大会代議員の選挙がおこなわれた。その時私は東海地協の新入組合員学校の帰路にいて、その結果を聞いた。大阪、東京、あちこちで接戦となった選挙は同数抽選となり、残念なことにとごとく闘う仲間が敗れた。支部大会前に会社派の委員長候補と大田決定さんが面談した。明確な会社の意を受けた立候補、この面談について樋口裁判大阪高裁で証人に立った。会社からは反対尋問すらなかった。引き続き人減らしと不当労働行為で多くの仲間が職場を去った。不当労働行為は人の心を傷つけ、人間の尊厳を破壊する犯罪行為。闘う仲間は人生をかけて、そのことを訴え続け、野村資本と四半世紀に渡つて闘い、世紀を超えてこれを糾弾した。

四半世紀前からの闘い



元全損保
中央執行委員長
金山 幸晴



主な出来事

1983年

- 春 定年退職金切下げ
- 3月 神戸分会委員長樋口勇君に金沢営業所への異動命令
- 6月 樋口君は不当配転撤回を求め神戸地裁に提訴
- 9月 朝日支部大会「会社派」が支部執行部独占
- 10月 大田決元支部執行委員長以下、朝日支部のたたかう仲間が東京都労働委員会に不当労働行為救済を申立
- 12月 労働時間延長

1984年

- 9月 樋口裁判進む。全国から神戸に数多くの傍聴支援
- 11月 3月臨給廃止
組合民主化運動はじまる。「30人アピール」「50人アピール」出される。「55人アピール」に発展

1985年

- 4月 「樋口署名」スタート
- 6月 労働協約改悪。適用範囲を組合員に限定
- 9月 「提訴団ニュース」創刊(2005年9月、239号まで発行)

1986年

- 6月 新職能給制度移行
- 9月 樋口闘争 神戸地裁で完全勝利判決
経営は不当にも即日控訴
- 11月 全損保と全証労協は初の全国共闘で11.20統一行動を展開。野村證券前抗議行動に900名。全国で23万枚のビラ

1987年

- 証券の仲間との毎月の共同行動が定着
- 6月5～10日 全国で野村証券糾弾の宣伝行動 全証労協との20万枚こえる共同ビラを配布



1985年9月 「提訴団ニュース」創刊

1984年
朝日本社へ
神田屋デモ



1985年9月 野村社前朝日ビラ



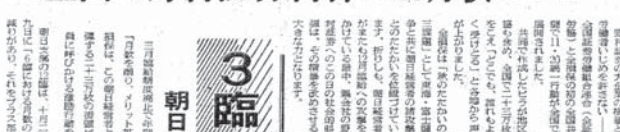
1986年4月
大阪御堂筋総行動
野村大阪支店前



1986年8月 「支部大会に皆の勇気と本音を」55人のアピール



全国で野村証券糾弾の23万枚のビラ



1983年6月10日 樋口さんが朝日経営を相手に不当配転撤回を求めて神戸地裁に提訴



1986年 証券の仲間との初の全国行動で 野村証券を包囲 11.20統一行動

許せない攻撃、広がるたたかいはの輪

樋口闘争と提訴団のたたかいはの反撃

1983 → 1987

経営者は言いなりの労働組合をつくるため、八〇年八月全面的に組合役員選挙に介入。八三年、経営者は支部執行部をすべて握り、思うがままの「合理化」を強め、支配介入に反対する者は遠隔地に配転。ありとあらゆる差別と権利侵害を続けた。

これに抗し、同年六月、金沢営業所への異動を許さないと神戸分会委員長樋口勇さんが神戸地裁に提訴。一〇月には元支部執行委員長大田決さんをばじめたたかう仲間が、支配介入禁止、差別と権利侵害の是正を求め、東京都労働委員会に不当労働行為の救済を申し立てる。八六年には樋口裁判は神戸地裁で全面勝訴。会社控訴によりたたかいはの舞台は大阪に移る。

経営者への怒り、たたかう仲間への共感、全損保全体に伝わり、神戸で、大阪で、東京で、そして全国の地協で、数多くの組合員がとりくみに参加。証券の仲間との共同行動もはじまる。朝日火災、野村證券前の抗議行動、裁判傍聴、街頭宣伝、ビラやパンフの配布など、日に日にたたかいはの大きさが広がっていく。

会社の都合で何で家族が犠牲にならなアカンねん!

前全損保大阪地協書記長
海老原寿哉



一九九九年九月二六日、私は大阪高裁の階段を駆け降りました。勝訴一たれ幕を持つて…神戸地裁勝利を受け、大阪地協は樋口闘争・現地闘争本部を引き継ぎました。地協役員になる際、当時の喜田書記長に「あのため幕を持たせてくれるのなら…」を、条件のひとつに引き受けたことが昨日のように思い出されます。「単身赴任は当たり前」この社会や職場の風潮を何とか打破したく、樋口問題について生懸命学びました。夫婦を生木のこごとく引き裂く事態の本質が、労働者犠牲と不当労働行為の上に成り立つ企業の合理化政策であつたことを知り、「会社の都合で何で家族が犠牲にならなアカンねん」との怒りが湧き上がりました。東海・富士闘争と結合し、朝日・野村前抗議集会・署名とありとあらゆる運動を展開、そして、「傍聴席を埋め尽くそう」を合言葉に、大東京支部の仲間を先頭に全国から毎回多くの仲間が大阪高裁に結集しました。完全勝利判決の日、傍聴席に入りきれない組合員が高裁北庭で固唾を飲んで待つていました。私の掲げたたれ幕を見た瞬間の拍手・歓声。そしてうれし泣きする仲間たち。それを支えつけた弁護団の尽力。このたたかいはの原点は、人間らしく働きたい・人間らしく生きたいと思う一人ひとりの願いだったのです。

たたかいはの記憶

主な出来事

1988年

- 4月 全損保は4・20全国統一行動。東京、大阪で野村証券に抗議行動

1989年

- 5月 「5・23三争議早期解決をめざす野村証券昼休み抗議集会」に350人。
10月 全損保・全証労協で共同デスク版の機関紙を発行 「10万人署名」を提起

1990年

- 3月 朝日火災本社へ昼休み1300人の抗議デモ
4月 金融共闘統一行動としてとりくむ
12月 青婦が1日行動を展開 全国から集めた「大連判状」を朝日経営に手渡す
12月 野村関連争議(朝日、高木貞、石塚証券)が合同で決起集会

1991年

- 5月 樋口勇さんの京都への異動で夫婦同居をかちとる
9月 樋口闘争 大阪高裁で全面勝訴 経営は最高裁に上告
11月 木更津営業所に不当配転されていた大田決さんに米子営業所へのさらなる不当配転命令
大田さんは千葉地方裁判所に「地位保全」の仮処分命令申立。木更津・東京と移送。たたかいは東京地裁へ

1992年

- 6月 都労委 双方が最終陳述書提出。賃金差別を除く問題が結審
6月 東京地裁大田不当配転仮処分で完全勝利命令
7月 大田さん 半年で米子から戻り成田営業所に
10月 野村証券包囲共同行動推進委員会発足 全損保、全証労協、全労連全国一般で「野村関連三争議の勝利をめざす文化の夕べ」1,900名が参加 終日共同行動 全国79ヵ所でビラ62,000枚 青婦は抗議はがき1,800枚を朝日火災経営に提出

1992年6月23日 大田さんの不当配転処分裁判 東京地裁で配転無効の完全勝利命令



勝利命令を受けて
木更津に就労闘争

1991年青婦総行動
朝日本社前朝ビラ



1991年青婦総行動
野村社前抗議行動



1992年野村関連三争議の勝利をめざす文化の夕べ

たたかひの記憶

大田さんの不当配転撤回に対する地位保全の仮処分命令を申し立て、全損保の組織内はもちろん、金融地域の仲間とともに団体署名、経営抗議行動、裁判傍聴などに全力でとりくむなかで、九年六月三日配転無効の勝利判決を勝ち取りました。
前進と反動の繰り返しで、まだまだ朝日闘争の全面解決が見えない状況ではありましたが、それをたたかう仲間の輪が大きく広がり、そこにたたかひの展望が見えたときでした。

金融の仲間とともに行う共同行動、朝日・野村経営に対する抗議署名、勝利をめざす文化の夕べなど、たたかひと織りなしてとりくむさまざまな運動に、職場から次々と新しい仲間が参加し、まさに、朝日闘争が全損保の組織をあげてのたたかひとなりました。
朝日経営は、樋口君の不当配転撤回裁判で九年十月最高裁に上告し、十一月には突如朝日闘争の中心であった大田決氏を木更津から米子に配転命令を出すなど、そのえげつなさを露骨に表してきました。裁判でも、経営の不当性が断罪され、これだけの仲間が声に行動に表している意思を無視する朝日・野村経営に対し、心底怒りを覚えました。

その時そこ にたたかひの展望が見えた

八八年から九二年にかけては、樋口夫婦別居配転撤回闘争の大阪高裁でのたたかひが燃え上がり、高裁勝利と経営の最高裁上告により、文字通り東京が主戦場に移った時期でした。



元全損保東京地協書記長
下山松太郎

1988 → 1992

人間の尊厳は譲れない

——人の要求はみんなの要求 「全損保らしさ」貫く

このたたかひは、自らの生活と職場に人間性を取りもどすたたかひだ。全損保組合員は、たたかう仲間の要求実現のため、全体でたたかひをすすめた。行動と学習を繰り返し、毎月実施された証券の仲間との共同行動日には、野村証券本社、各支店に〇〇〇人単位で抗議が行われ、毎年、一〇〇万枚以上のビラが配布されていく。青年婦人部も、「樋口パネル」、朝日火災の職場訪問など、創意工夫でたたかひの先頭に立ち、後の活動家も数多く生まれていく。

九月五月には樋口勇さんは京都に戻り、九月には大阪高裁で勝訴。しかし、会社は最高裁に上告。九二年、経営者は、大田決さんに米子への配転命令を出す。翌年には東京地方裁判所で配転無効の勝利命令をかちとる。高揚するたたかひの中で、「進退の攻防が続いていく」。



1988年6月 富士闘争と結合、野村社前1,100名の大集会

大蔵省・野村証券は高木貞証券・石塚証券・朝日火災争議を全面解決せよ

大蔵行政・野村証券を司法も断罪

80年の高木貞証券倒産直前に大蔵省と証券業界がおこなった京都ステーションセンター（京都市と田園鉄など共同出資会社）に対する違法な優先売却によって、小口投資家と従業員が切り捨てられたとして被害者財人・高木貞証券労働組合が訴えていた裁判で、最高裁判所は1月25日、原告の主張を認め、京都ステーションセンターに対して金利を含め3億7,000万円の支払いを命じる判決を下した。

翌2月20日には、野村証券が役員を送り込んでいる石塚証券経営が、労働組合と親分分会長を解任し、すでに決着済みの証券トラブルをむしろしておこなった求償裁判で、大田高裁はトラブルの原因となった会社の利益第一主義を批判し、石塚経営の主張は不当との判決を下しています。

元本割れ投資信託放置 従業員切り捨ての無責任ぶり

政治・大蔵省は、野村証券の元本割れ投資信託の放置をめぐり、従業員を切り捨てた無責任ぶりを厳しく批判する。野村証券は、元本割れ投資信託の放置をめぐり、従業員を切り捨てた無責任ぶりを厳しく批判する。野村証券は、元本割れ投資信託の放置をめぐり、従業員を切り捨てた無責任ぶりを厳しく批判する。

■大蔵省 大田 林 義典 平田 中野 昭彦 中野 昭彦 中野 昭彦

■野村証券株式会社 社長 野村 浩一 副社長 野村 浩一 副社長 野村 浩一

■朝日火災海上保険株式会社 社長 野村 浩一 副社長 野村 浩一 副社長 野村 浩一

野村証券関連三争議共同ビラ

それでもやめぬ労働者いじめ

批判浴びる野村体質

バブル経済崩壊後、利益供与事件、総会屋との癒着と、野村證券の反社会的行為が次々と明らかになる。野村證券の体質は社会的に批判的となり、経営者は「社会の倫理規範から一寸たりともはずれない」と公約する。しかし、野村證券は、子会社朝日火災では、違法な労働者いじめを堂々と続け、片方ではノルマ営業を復活。社会の期待を裏切った。

全損保は、その欺瞞を社会に訴え、たたかいを強化。九三年には最高裁判所で樋口裁判の完全勝利が確定した。また、九四年一月には東京都労働委員会が結審「命令待ち」の他の争議団とともに都庁前で早期命令を求めて宣伝行動を重ね、九六年に「完全勝利命令」をかちとる。全損保は、都労委命令を守らせる週間総行動を展開。しかし、経営者は、命令を不服として中央労働委員会に再審査を求め、争議は長期化していく。



96年都労委命令を守らせる一週間総行動

朝日一週間総行動FAX通信 96.4.11 (木) NO. 5
4日間たいへんご苦労さまでした！
参加者のべ1015人の参加で
「一週間総行動」は大成功でした。
(大阪地協)



96年4月都労委勝利命令文布



96年9月人事部長へ抗議要請



青島総行動
野村本社前で
要請行動



元都労委労働者委員
戸塚 章介

朝日争議の特徴と意義 全損保を守り抜いた朝日争議

私は、朝日火災争議の都労委申立から命令まで、担当の労働者委員として関わりました。この争議は野村證券によって仕掛けられたものです。野村の意を受けた経営者（今風にいえば「刺客」）が送り込まれたことなど、証拠はたくさんありますが、私は、社内の危機感をいたすらに膨らませたマスメディアの利用という角度から見てみたいと思います。

朝日火災は、七八年三月に実質七億円の「赤字決算」を行いました。これを報じたのが、同年八月三日付の「日経新聞」で、社内では「日経ショック」といわれました。その後「大阪日日新聞」や「名古屋タイムズ」などが二面を採り上げ、危機意識を増幅しました。二紙の記事を読み合わせれば歴然なのですが、見出しは若干違うものの本文は全く同様の文章なのです。大体この二紙とも、日頃はキャンブルやヤクザの記事で売っている「大衆紙」で、硬派の経済記事とは無縁の新聞です。これは明らかにリークを目的に紙面を買ったものなのです。こんなことができるのは野村證券しかありません。

九六年に出た都労委命令は、会社の不当労働行為は指弾しましたが、救済内容のあいまいさなど若干の問題を残しました。それを克服して今日の全面勝利へ漕ぎつけた争議団・弁護団に敬意を表します。争議がなければ朝日火災支部は全損保を脱退していたことでしょう。皆さんが全損保という素晴らしい組合を守ったのです。おめでとう。

主な出来事

1993年

- 2月 樋口裁判 最高裁判所で勝利判決 樋口勇君神戸に戻る
- 11月 野村抗議デー 全国73ヶ所でビラ33,000枚
- 12月 青島中央総行動

1994年

- 8月 大田さん不当配属・本裁判 東京地裁で仮処分が確定する実質勝利判決
- 8月 都労委で命令待ちの4つの争議団・組合が共同して「早期公正命令」を求める東京都庁前宣伝行動をスタート 毎週70名以上 毎月2回を2年余継続

1995年

- 5月 4団体 都庁前宣伝行動反復
- 秋 10～12月4回の野村包囲共同行動 全国239カ所13万4000枚ビラ配布

1996年

- 4月 都労委で勝利命令かちとる。勝利命令を守らせる1週間総行動
- 9月 50万枚ビラ作戦スタート
- 12月 50万枚突破 ビラ配布は3869名で55万6754枚に到達

1997年

- 11月 野村包囲共同行動、金融共闘統一行動日 300名が兜町デモ。金融共闘主催の中央大集会に800名参加

たたかひの記憶

主な出来事

1998年

- 2月 不当労働行為事件 中労委が勝利命令
勝利命令を守らせる1週間総行動
- 3月 経営は命令取り消し求め東京地裁に行政訴訟
- 7月 中労委は「緊急命令」を東京地裁に申立

1999年

- 2月 全労連協議支援総行動への参加始まる。
野村社前で抗議行動
- 4月 金融共闘統一行動
野村証券本社に500名の抗議デモ
- 11月 金融共闘統一行動
野村証券本社にデモ 大蔵省前で抗議行動

2000年

- 4月 金融共闘統一行動
野村証券本社へ600名の抗議デモ
朝日野口社長、野村氏家社長宅周辺宣伝行動

2001年

- 野村証券関連三争議として朝日火災争議、野村男女差別争議、仲立証券争議の共同行動始まる
- 8月 不当労働行為事件 東京地裁で中労委命令を上回る全面勝利判決 あわせて中労委命令の履行を命じる「緊急命令」
- 10月 全損保は中労委に「緊急命令」履行状況を報告し断固たる措置を要請する
この頃から金融庁への要請行動強める

11度も断罪 罰金（過料）も命じられた朝日火災

- ①1981.10 都労委、「支配介入」への救済命令
- ②1986.9 樋口事件神戸地裁勝利判決
- ③1991.9 樋口事件大阪高裁勝利判決
- ④1992.6 大田事件（仮処分）で東京地裁が不当配転無効の勝利決定
- ⑤1993.2 樋口事件で最高裁勝利判決
- ⑥1994.7 大田事件（本訴）で東京地裁が実質勝利の判決
- ⑦1996.4 都労委全面勝利命令
- ⑧1998.2 中央労働委員会勝利命令
- ⑨2001.8 東京地裁勝利判決
- ⑩2003.9 東京高裁勝利判決
- ⑪2004.6 最高裁判所判決 東京高裁の判決が確定



緊急命令後、
本社前で命令要旨を
訴える提訴団

中労委勝利命令後、野村
本社前で抗議行動



九五年、中央労働委員会は、全面勝利命令を下した。経営者は長期化を狙い、東京地方裁判所に中労委命令の取消を求める訴訟を行う。東京地裁の判決は二〇〇一年八月に下り、経営者の主張は全面的に退けられ、中労委命令の履行を命じる「緊急命令」も発せられる。しかし、経営者はその命令も守らず、最高裁判所まで争った末に、罰金（過料）一〇〇万円を支払い、なお、不当労働行為をやめなかった。たたかひを通じて裁判所と労働委員会の下された判決・命令は最高裁判所も含め計十回。野村証券、朝日火災はそれらを切無視した。法を破り、裁判所を無視する証券会社、保険会社に誰もが呆れ、そして怒った。おりしも、九八年には損害保険業界は「自由化」が強行され、無秩序な競争が激化する方となった。合併統合、企業破綻、早期退職強要、そして組織問題…、全損保も大きな試練を迎え、たたかひは二世紀を迎える。

1998 → 2001

計11度の断罪

命令・判決に従わない経営



1998年2月12日
中労委勝利命令報告集会



1998年2月 中労委命令を守らせる1週間総行動、神田デモ

たたかひの記憶

一人ひとりを大切にする運動の伝統、大切さ



弁護士
牛久保 秀樹

朝日提訴団、全損保の皆さんの運動に心から敬意を表します。

法廷闘争では、樋口配転事件で発揮された、神戸地裁の法廷の熱気を今でも覚えています。そこで、A派B派という言葉が生まれました。大田配転事件では、勝てないといわれた東京地裁での勝利でした。担当された弁護団の奮闘は大きな力でした。私は、国民金融公庫事件で不当判決が出た時に、朝日で負けるわけにはいかないということで大田さんと緊迫した打ちあわせを繰り返しました。弁護士の仕事でいうと、やはり勝つために全力を傾けないといけないと思います。

それにしても、改めて、一人ひとりを大切にしようとする全損保運動の伝統の大切さを感じます。他の労働事件をみても単産の皆さんが執行部、職場を含めて、ここまで自分の事件と考えて運動することは決してよくあることはありません。全損保を守ること、そのことが労働者の雇用と権利を守ることになるということをまた実証したと思います。

私は、現在、日動外勤支部の皆さんの運動の弁護団の仕事を引き受けています。この運動に朝日の闘いが継承されて、全損保運動が更に豊かになることを期待し、ともに歩みたいと思います。



緊急命令後の朝日本社前抗議行動

主な出来事

2002年

- 4月 ACE支部上原・小泉解雇、瀧元委員長不当配属問題とあわせ団体署名スタート
中労委東京地裁に緊急命令不履行を通知
東京地裁へ緊急命令不履行への制裁審理促進要請
- 6月 東京高裁が和解勧告
(2003年3月決裂)
- 11月 野村証券関連三争議共同行動
兜町デモ、野村本社抗議、神田、日本橋、財務省宣伝

2003年

- 2月 野村証券関連三争議共同行動
都内野村支店要請行動
- 7月 全国主要都市行動スタート
野村証券関連三争議共同行動 全国主要都市の野村証券抗議要請行動
- 8月 団体署名は4,200超える
- 9月 東京地裁は「緊急命令」違反で朝日火災経営に過料150万の決定 経営は東京高裁に抗告
- 9月 不当労働行為事件 東京高裁で全面勝利判決 判決を知らせる1週間総行動
- 12月 東京高裁「緊急命令不履行」への過料決定。即時抗告を却下(ただし、金額は100万に)

2004年

- 1月 「100万枚のビラ」(街頭・戸別配布)のとりくみスタート
- 1~3月 野村包囲共同行動、全国47都道府県野村証券抗議、財務局、財務事務所要請、宣伝行動3争議団が地方巡業。奈良、岡山、神奈川、鹿児島、宮崎、大分、福岡、長崎、高松、広島、大阪、愛知、埼玉、長野、群馬、栃木、京都、滋賀、岐阜、三重、岩手、福島、宮城、富山、新潟、石川、それ以外の各県は県労連を中心に抗議行動
- 2月 「100万枚のビラ」全損保一斉行動日
「100万ビラ」は2005年9月の到達 832,630枚)
- 3月 最高裁判所は「緊急命令」不履行の過料に対する経営の特別抗告を棄却(100万の過料確定)
- 6月 不当労働行為事件 最高裁判所が経営の上告を棄却 東京高裁の全面勝利判決が確定



朝日闘争100万枚のビラ

前全損保東京地協議長 富沢 泰広

2004年度後半の東京地協の活動はまさに朝日闘争「百万枚のビラ」一色であり、休日午前中の「団地ビラ」や平日午後の「山手線一週総行動」によって288,000枚のビラをまき抜きました。当時地協議長であった私も、多くの全損保の仲間と交流しながら、身体はきつかったけれども気持ちは楽しく、マンションや団地の集合ポストにビラを配布しました。警備の厳しいマンションなどでは、管理人の目を盗んで忍び込み、いつ怒鳴られるのかドキドキハラハラしながらも片っ端からビラを入れまくりました。おかげで、ポスティングの技は相当身についたのではないかと思います。

こうしたとりくみの積み重ねが、27年にも及び闘争の全面勝利解決に結びつき、あらためて全損保の力強さを感じるとともに、私自身もこの勝利解決の場に立ち会うことができ本当に良かったと思います。



2004年度後半の東京地協の活動は「100万枚のビラ一色だった」



大阪野村証券前共同行動

高裁判決を知らせる1週間総行動で朝日抗議要請



たたかひの記憶

労働問題におけるCSRの第一原則の勝利を祝します

去る九月五日、大阪高裁で住友金属男女差別裁判の第二回法廷がありました。その日の午後、大阪市内で本年三月の地裁勝利判決に立脚した早期解決を求める支援者の集いが開かれ、そこで朝日火災による不当労働行為事件をめぐる多年にわたるたたかひが勝利解決したことを知りました。

世界ではいまCSR(企業の社会的責任)に対する関心が高まり、投資先企業がCSRを果たしているかどうかを重視して投資行動をとるESG(社会的責任投資)が大きな流れとなっています。日本ではCSRと一口に環境責任のことがまず想起されますが、世界では労働問題がCSRの最重要課題の一つになってきています。

労働問題におけるCSRの第一原則は、いつまでもなく組合結成の自由を認め、労働者の団結権と団体交渉権を尊重することです。朝日火災の争議は、この原則を経営側が労働組合への不当介入による乱暴に踏みしめるところから始まり、しかも、都労委、中労委の命令地裁、高裁の判決にも従わず、最高裁が会社の上告を棄却し、高裁の勝利判決が確定した後も解決を引き延ばし、いたずらに長期化させてきたと言わねばなりません。

それだけに今回の勝利解決は労働問題におけるCSRからみても大きな歴史的意義を有しています。またその意味で朝日火災不当労働行為事件の勝利解決を心より喜び申し上げます。



関西大学経済学部教授 森岡 孝二

2002 → 2004

今度こそ解決へ

—最高裁で確定判決かちとる

東京高等裁判所では和解交渉が決裂し、二〇〇三年九月に全面勝利判決が出る。しかし、経営は最高裁判所に上告。全損保は、判決直後には「高裁判決を守らせる一週間総行動」を展開し、二〇〇四年一月には「二〇〇万枚のビラ」に打って出る。

証券の仲間とともに、全国四七都道府県での主要都市行動を展開し、各地協では創意を凝らして団地ビラのとりくみが進む。二〇〇四年六月九日、最高裁判所が完全勝利判決を下す。

＜最高裁確定判決の要旨＞

1. 組合役員選挙への支配介入の禁止
2. 時間内組合活動休暇の差別取扱い禁止、賃金カットの返還
3. 不当配転無効、原職場復帰
(緊急命令で復帰済)
4. 賃金・賞与・職能資格・役職を同年同期入社並に是正(課長格まで)、過去の差額の支払い
(昭和63年度～平成3年度)
5. 謝罪文の店頭表示



野村への抗議



野村包囲共同行動推進委員会
金融庁へ3争議解決要請



共同行動で判決履行指導を迫る財務省前集会

主な出来事

2005年

- 3月 「野村證券の責任を追及し、朝日火災争議をかたせる会」発足決起集会 300名
- 4月 中労委調査 和解交渉
野村證券包囲終日行動 のべ1100名
●早朝宣伝、本社前要請行動(座り込み)、兜町デモ、日本橋宣伝行動
- 4月 都労委調査
5月 中央メーデー会場で宣伝
東京地評争議支援総行動、野村本社抗議行動
関西 朝日火災争議をかたせる会野村證券包囲終日行動 のべ600名
●早朝宣伝、座り込み、財務局要請、野村證券抗議行動、決起集会
野村證券包囲終日行動 のべ600名
●早朝宣伝、中労委調査、金融庁要請、野村本社前要求実現申し入れ行動、キャンドルスティックデモ、野村證券抗議行動
- 6月 全国主要都市行動 のべ355名、ビラ配布14000枚
●広島、高松、札幌、仙台、金沢、さいたま、名古屋、福岡、新潟、熊本
●早朝宣伝、財務局要請、野村證券支店・朝日火災支店抗議、市街地昼休み宣伝行動
関西 朝日火災争議をかたせる会 野村證券包囲終日行動 のべ450名
●早朝宣伝、座り込み、野村證券抗議行動、財務局要請
野村ホールディングス株主総会終日行動 のべ300名
●株主総会で全損保委員長、野村の仲間が責任追及、会場前宣伝行動、金融庁・中労委要請、朝日火災抗議、五反田・日本橋周辺宣伝行動、本社前総括行動
- 7月 中労委調査(和解)
都労委調査
朝日火災本社前抗議行動
野村證券を吹き飛ばせ終日行動 のべ900名
●早朝宣伝、中労委調査、本社前要求実現行動、トワイライトうちわデモ、トワイライト抗議行動
- 9月 関西 朝日火災争議をかたせる会大集会 130名
- 9月7日 中労委調査(和解)
12日 中労委調査(和解)
15日 中労委和解調印

2005

「かたせる会」のたたかいで全面勝利 金融庁・野村證券を動かす

最高裁判所判決も無視する野村證券 朝日火災に対する怒りは、全国の労働組合に広がっていった。三月には「野村證券の責任を追及し、朝日火災争議をかたせる会」が結成される。全労連議長、東京地評議長をはじめ二三の労働委員長と歴代の全損保委員長がよびかけ人に名を連ね、多くの個人会員と六八の労働団体が結集。四月には初の野村證券抗議終日行動を皮切りに、毎月の行動を展開。大阪では関西をかたせる会が結成され、東西で同時多発的にたたかいが繰り広げられた。たたかいの中で、当初は「個別の労働争議であり無関係」としていた金融庁も、最高裁判決を守らないことは許されないとして対応を始めた。

このたたかいの中で、中央労働委員会でも和解交渉が進む。経営者の不誠実な態度と中労委側の理解の遅れから交渉は難航するが、九月五日、ついに和解が成立。最高裁判所判決を踏まえた全面勝利の内容を勝ちとった。たたかいは朝日火災だけでなく、野村證券、そして金融行政を確かに動かした。

3月

3月 「かたせる会」発足で怒りを込めた団結ガンパロー



野村證券本社前

早朝宣伝行動



4月

4月15日 座り込み抗議行動



4月 野村証券包囲終日行動 兜町デモ出発



大きな変化をつくり全面勝利を実現

全労連・全国一般労働組合
中央執行委員長
大木 寿



朝日火災提訴団と家族の皆さん、全損保の皆さん。争議勝利おめでとうございます。本場に良かつたですね。

私は、野村證券関連争議のたたかいは朝日火災の仲間と全損保の皆さんと緒に二〇年以上してきました。皆さんの支援のおかげで、昨年に私たちの組合の野村證券の女性差別事件と大証仲立証券の会社解散全員解雇事件を解決することができました。私は、何としても朝日火災争議を早期に勝利させるために力を尽くさねばと思い、提訴団の一員のつもりでたたかってきました。

「最高裁判決を守れ、野村證券は企業の社会的責任を果たせ」を合言葉に三月に結成された「かたせる会」は全労連・春闘共闘金融共闘の主要労組が代表幹事となり、野村證券に対峙する体制がつけられました。結成以降の全損保と「かたせる会」による集中したたたかいは素晴らしいものでした。提訴団の皆さんがきついで行動の連続でも笑顔でがんばっている姿が目につく付いています。毎月の野村證券本社の包囲行動は創意工夫された企画で参加者を元気にし、野村證券に大きなインパクトを与えました。毎月の大阪行動、全国主要支店行動、株主総会、金融庁要請で大きな変化をつくり出し、ついに中労委で全面勝利の和解を実現しました。

提訴団と家族の皆さん、二七年間本場に苦勞をされた。皆さんの勝利に私も確信を深めて、労働運動を進めていくことができます。

6月 全国主要都市行動 「かたせる会」へ68の労組・団体、数多くの個人がたたかいに結集

何としても
決着つける思いで



全損保大阪地協議長 仁谷 元さん

何としても決着をつけるという思いで「関西 朝日争議をかたせる会」は活動してきました。全損保組合員の参加はもちろんですが、OBの支え、地域の労働組合の支援で大きく盛り上がりました。とりわけ5・6月の行動は好天に恵まれ、路上で美味しく弁当も食べ、近畿財務局の前の宣伝も大横断幕を作って大成功でした。樋口争争の現地闘争本部（神戸地裁、大阪高裁）を担ってきた京阪神3地協の歴史的な重みを再認識するとともに、緊急の提起に応えていただいた仲間と厳しく励まし全力で支えてくれた諸先輩のみなさんへの感謝の思いでいっぱいです。個人的にも青年婦人部の時代から関わってきた朝日争争が勝利して本当にうれしく思っています。樋口争争での宗藤弁護士の最終弁論の一節『人間の尊厳は不可侵である』を聞いた感動は忘れられません。

関西かたせる会の宣伝行動



札幌行動



仙台要請行動



金沢街頭宣伝



新潟県労連



さいたま野村証券要請



名古屋街頭宣伝



広島財務局要請



高松街頭宣伝



福岡街頭宣伝



熊本街頭宣伝

7月



トワイライトうちわデモ



金融庁への要請行動(上)



中労委への要請行動

「かたせる会」の力が
金融庁野村証券、朝日火災を
動かした



野村ホールディングス株主総会会場（ホテルオークラ）で経営責任を追及

5月

たたかいの前進で出番も増えました



太田真季さんと
ジョイントも

松平 晃さん

朝日争議解決おめでとうございます。
野村証券とのたたかいで、私のトランペットが幾分かでも役立ったのであれば、こんなに嬉しいことはありません。
初めて『野村証券本社』前での演奏は、『女性差別』争議でのことでした。
原告の皆さんがたが宣伝カーの前に居並び車上で、確か『北の国から』を吹かせていただいたのです。
吹き終わって、演奏への反応をお聞きますと、「争議に関係のない人から声を掛けられた」「女性たちが涙ぐんでいた」「東京駅近くまで聞こえた」「元気が出た」など、手応えを感じるものが返ってきたのです。
そしてその後、私の時間が合えば本社前だけではなく、東京駅前・高島屋前・三越前・日本橋上・コレド前へと、女性差別解決以後も、その『持ち場面』は、拡がって行ったのでした。
ラッパの音は、『前へ・前へ』ですので、争議勝利へ『ヒタハシッた』のでしょうか!?
演奏後の『交流会』が、もう出来ないのが唯一残る『やりのこし』ですね!?

長く記録に
とどめておきたい



中央区労働組合協議会事務局長 椎葉 紀男さん

人間としての尊厳と正義に対するゆるぎない確信をもってたたかいぬき、素晴らしい到達点をかちとった朝日争議団と家族の方々、全損保を中心とする金融職場に働くみなさん、本当にご苦労さまでした。
野村証券本社のある地域の組合の立場から、特に終盤の野村の責任を追及し、解決をせまる連続的なたたかいに私たちも参加することができたことを共に喜び、忘れられない教訓的なとりくみとして、今後の運動のために長く記録にとどめておきたいと思います。
このたたかいを通して、培われた職場、産業の枠を超えた連帯と貴重な教訓を、休むことなく、次のたたかいに引き継いでいきましょう。



9月 中労委和解調査
状況報告する全損保朝日提訴団